

令和3年度

「学生による授業評価」の概要

令和4年6月

県立広島大学大学教育実践センター

【 前 期 】

- 授業科目の概要 人間文化学部 国際文化学科（学科別集計）・学科専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 315
- 回答率 41%

令和3年度前期のアンケート結果は、新型コロナウイルス対策として令和2年度前期から継続し一年を経て2回目の春となったオンライン授業に、学生教員ともにある程度の適応を示し、少し余裕を持って効果的な学びへ挑戦が行われたことが伺えるものとなったように思われる。

回答率は一年前の前期よりは上がったので、コメントするに足る材料にはなってきたと思われる。学生も、オンラインの授業での課題提出などの活動に慣れてきて、オンラインでのアンケートにも積極的に答えることができるようになってきていると言えるだろう。だが、アンケートに答える気力と実績があった学生の評価だけを見ているわけで、そうでない部分をどうするのが大きな課題である。

設問別に見ると、授業への取り組みを示すQ1では昨年前期の3.49から3.53に微増、Q2では2.71から2.70とほぼ同じ。オンライン授業に対する方法や手順、流れ、計画性、課題の達成などに慣れてきたということが言えると思われる。またオンライン授業への教員側の適応を示すQ4では昨年の3.30と比較して3.21と若干下がっているが、他の授業との比較ができる状況で学生の評価が厳しくなったのかもしれない。そうした傾向の一端は、Q7にも同様に示されており、昨年度の3.48からさらに3.33と若干下がっている。教員による支援を示すQ6でも昨年度の3.41から3.32とわずかに下がっているが、これは、双方の慣れによって支援の必要性が減ったことによる影響かもしれない。

総合的な満足度を示すQ9では昨年後期3.54から3.33と少し下がった。学生・教員がオンライン授業を一年経験した後で、それが解除されず継続になったことへの不満もあるだろうし、対面授業を切望する気持ちも反映されているかもしれない。教員の側も二度目ということで、慣れがマンネリ化をもたらしたかもしれない。オンライン授業の影響については、学年ごとの学修の状況を踏まえて評価してゆく必要がある。4年生は卒論だけを残し授業をあまりとっていないのでこのアンケートでは、彼らの評価というものはほとんど反映されないだろう。3年は一番重要な時期、演習などで対面の活動が重要な時期にオンラインになり、それ以前との激変を経験して、戸惑いが続いていたのではないか。また、授業アンケートは、オンライン授業でも持ちこたえてきて、その上で答える気力のある学生の意見だけしか反映していないとも言える。オンライン授業に失望し、授業参加がうまくできない、ましてやアンケート調査にもその気持ちが反映されていない学生がいる可能性が大いにあるので、その点をどのように評価してゆくのが大きな課題

だと思われる。可能ならば、各教科の成績がどう変化したのかとか、授業の実施形式（講義系、発表形式、議論中心など）による違いも同時に見てゆく必要があるかもしれない。また、コロナ禍が終息した後に行かせる方法論の蓄積とか、設備の問題点の改善など、経験を活かす方法について考え始めることが必要だろう。

■学部・学科 人間文化学部国際文化学科
 ■科目名 人間文化学部国際文化学科全体
 ■担当者名

■受講登録者数 771
 ■回答者数 315
 ■回答率 40.9%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	176 55.9%	130 41.3%	9 2.9%	0 0.0%	3.53
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	57 18.1%	113 35.9%	138 43.8%	7 2.2%	2.70
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	148 47.0%	155 49.2%	12 3.8%	0 0.0%	3.43
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	134 42.5%	123 39.0%	47 14.9%	11 3.5%	3.21
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	123 39.0%	160 50.8%	26 8.3%	6 1.9%	3.27
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につ く。	124 39.4%	169 53.7%	20 6.3%	2 0.6%	3.32
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプ リ・ファイルなど)は適切だ。	123 39.0%	177 56.2%	10 3.2%	5 1.6%	3.33
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたくなる。	119 37.8%	169 53.7%	18 5.7%	9 2.9%	3.26
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	132 41.9%	157 49.8%	23 7.3%	3 1.0%	3.33
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	127 40.3%	169 53.7%	15 4.8%	4 1.3%	3.33

■設問別科目平均の範囲と平均値

平均の範囲(当該学部・学科科目)						全学共通 または 専門科目 の平均値
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差	
3.00	3.43	3.50	3.70	4.00	0.24	
1.67	2.35	2.76	3.00	4.00	0.55	
2.88	3.26	3.50	3.63	4.00	0.29	
1.77	3.00	3.35	3.63	4.00	0.51	
2.00	3.00	3.25	3.54	4.00	0.46	
2.00	3.16	3.35	3.60	4.00	0.40	
2.00	3.16	3.33	3.60	4.00	0.39	
2.00	3.00	3.35	3.62	4.00	0.47	
2.00	3.14	3.33	3.60	4.00	0.42	
2.00	3.18	3.33	3.59	4.00	0.40	

【 後 期 】

- 授業科目の概要 人間文化学部 国際文化学科 (学科別集計)・学科専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 93
- 回答率 16%

令和 3 年度後期のアンケート結果は、令和 2 年度前期から 2 年間にわたって継続してきたオンライン授業に、学生教員ともに更なる適応を示し、効果的な学びへの歩みがさらに進んだことがある程度伺えるものとなった。

回答率が非常に低いので、本来ならばコメントするには材料不足の感が否めない。学生のアンケートに対する動機付けをどのように与えてゆくかを引き続き検討してゆく必要がある。

設問別に見ると、授業への取り組みを示す Q1 では昨年の 3.47 から 3.65、Q2 では 2.59 から 2.77 へと若干良くなっている。オンライン授業に対する方法や手順、流れ、計画性、課題の達成などに慣れてきたということが見えていると思われる。またオンライン授業への教員側の適応を示す Q4 では昨年の 3.30 と比較して 3.34 と若干良くなっており、教員側の工夫、努力の成果が示されている。そうした成果の一端は、Q7 にも同様に示されており、昨年度の 3.44 からさらに 3.48 わずかながら上昇している。教員による支援を示す Q6 では昨年度の 3.44 から 3.41 へとわずかに下がっているものの、これは、双方の慣れによって支援の必要性が減ったことによるものかもしれない。

総合的な満足度を示す Q9 では昨年後期の 3.52 から 3.54 へとさらに上昇しており、学生・教員がオンライン授業への試行錯誤の中から、次第に適応してゆく状況を示すものと評価できるだろう。オンライン授業が学生の学びに与える影響については、中・長期的な視点から調査し、評価してゆく必要があるだろう。授業アンケートは、学生の主観によるものであって実際の成果を示しているとは言えない。各教科の成績がどう変化したのかも同時に見てゆく必要があるだろう。

■学部・学科 人間文化学部国際文化学科
 ■科目名 人間文化学部国際文化学科全体
 ■担当者名

■受講登録者数 581
 ■回答者数 93
 ■回答率 16.0%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	61 65.6%	31 33.3%	1 1.1%	0 0.0%	3.65
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	14 15.1%	45 48.4%	33 35.5%	1 1.1%	2.77
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	48 51.6%	43 46.2%	2 2.2%	0 0.0%	3.49
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	43 46.2%	40 43.0%	9 9.7%	1 1.1%	3.34
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	44 47.3%	45 48.4%	3 3.2%	1 1.1%	3.42
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につ く。	41 44.1%	49 52.7%	3 3.2%	0 0.0%	3.41
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプ リ・ファイルなど)は適切だ。	47 50.5%	44 47.3%	2 2.2%	0 0.0%	3.48
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたくなる。	41 44.1%	49 52.7%	3 3.2%	0 0.0%	3.41
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	51 54.8%	41 44.1%	1 1.1%	0 0.0%	3.54
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	53 57.0%	37 39.8%	3 3.2%	0 0.0%	3.54

■設問別科目平均の範囲と平均値

平均の範囲(当該学部・学科科目)	平均の範囲(当該学部・学科科目)					標準偏差	全学共通 または 専門科目 の平均値
	最小値	25%点	中央値	75%点	最大値		
Q1	3.00	3.00	3.71	4.00	4.00	0.41	
Q2	2.00	2.00	2.90	3.00	4.00	0.58	
Q3	2.00	3.00	3.50	3.80	4.00	0.49	
Q4	2.00	3.00	3.00	3.50	4.00	0.52	
Q5	2.00	3.00	3.50	3.81	4.00	0.45	
Q6	3.00	3.00	3.39	3.62	4.00	0.38	
Q7	2.75	3.00	3.50	4.00	4.00	0.41	
Q8	2.75	3.00	3.39	3.70	4.00	0.40	
Q9	3.00	3.13	3.50	4.00	4.00	0.39	
Q10	2.50	3.24	3.55	4.00	4.00	0.42	

【 前 期 】

- 授業科目の概要 人間文化学部 健康科学科・専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 145
- 回答率 40.1%

健康科学科の授業評価アンケートの集計結果を項目別に観ると、Q1「授業に対する真摯な取り組み」の中央値（3.61）は、昨年度の学科の中央値（3.54）よりも高い値であった。Q2「授業外学修時間」の中央値（3.20）は、昨年度の学科の中央値（3.01）よりもわずかに上回った。教員の授業改善及び授業外学修を促す取り組みの成果であると考えられた。Q3「授業外学修課題の提供」の中央値（3.50）は、昨年度の学科の中央値（3.57）をわずかに下まわったことから、適切な課題の提示に取り組む必要性が示唆された。一方、Q5「授業外学修課題の内容と量」の中央値（3.22）は、昨年度の学科の中央値（3.25）をわずかに下まわった。学生の負担感に細やかに配慮しながら課題の提示及び内容・量を調整する必要があると考えられた。Q6「目標とする力の修得」（3.39）、Q7「適切な教材・教具の提供」（3.36）、Q9「学習活動への支援」（3.36）及びQ10「総合的な授業の満足度」（3.34）は、それぞれ、昨年度の学科の中央値より高い値を示した。さらに、Q10「総合的な授業の満足度」の肯定的な評価の割合は97.3%であった。これらの結果から、学生が総合的に満足していることが示された。次年度も、引き続き、授業の改善に取り組み、学生が主体的に学習する場を提供できるように務めたい。

■学部・学科 人間文化学部健康科学科
 ■科目名 人間文化学部健康科学科全体
 ■担当者名

■受講登録者数 362
 ■回答者数 145
 ■回答率 40.1%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	89 61.4%	56 38.6%	0 0.0%	0 0.0%	3.61
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	56 38.6%	62 42.8%	27 18.6%	0 0.0%	3.20
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	76 52.4%	65 44.8%	4 2.8%	0 0.0%	3.50
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	77 53.1%	59 40.7%	9 6.2%	0 0.0%	3.47
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	43 29.7%	93 64.1%	7 4.8%	2 1.4%	3.22
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につ く。	60 41.4%	82 56.6%	3 2.1%	0 0.0%	3.39
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプ リ・ファイルなど)は適切だ。	57 39.3%	83 57.2%	5 3.4%	0 0.0%	3.36
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたくなる。	38 26.2%	91 62.8%	14 9.7%	2 1.4%	3.14
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	56 38.6%	85 58.6%	4 2.8%	0 0.0%	3.36
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	53 36.6%	88 60.7%	4 2.8%	0 0.0%	3.34

■設問別科目平均の範囲と平均値

平均の範囲(当該学部・学科科目)	平均の範囲(当該学部・学科科目)					標準偏差	全学共通 または 専門科目 の平均値
	最小値	25%点	中央値	75%点	最大値		
Q1	3.31	3.44	3.64	3.77	4.00	0.24	
Q2	2.00	2.71	3.17	3.45	3.92	0.55	
Q3	3.08	3.33	3.52	3.69	4.00	0.28	
Q4	2.69	3.26	3.54	3.69	3.92	0.35	
Q5	3.00	3.02	3.28	3.33	3.67	0.21	
Q6	3.00	3.35	3.46	3.54	4.00	0.25	
Q7	3.00	3.28	3.46	3.50	4.00	0.26	
Q8	2.69	3.07	3.12	3.29	4.00	0.29	
Q9	3.00	3.25	3.43	3.50	4.00	0.25	
Q10	3.00	3.23	3.41	3.49	4.00	0.25	

【 後 期 】

- 授業科目の概要 人間文化学部 健康科学科・専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 53
- 回答率 16.6%

健康科学科の授業評価アンケートの集計結果を項目別に観ると、Q1「授業に対する真摯な取り組み」の中央値（3.89）は、昨年度の学科の中央値（3.45）よりも高い値であった。Q2「授業外学修時間」の中央値（3.53）は、昨年度の学科の中央値（2.56）よりも高い値であった。教員の授業改善及び授業外学修を促す取り組みの成果であると考えられた。さらに、Q3「授業外学修課題の提供」の中央値（3.96）、Q8「さらなる学びへの意欲」（3.43）、Q7「適切な教材・教具の提供」の中央値（3.68）、Q9「学習活動への支援」（3.70）は、それぞれ、昨年度の学科の中央値から+0.24～+0.96 ポイント高い結果となったことから、授業改善について教員の努力が結果として表れているものと考えられた。Q10「総合的な授業の満足度」の肯定的な評価の割合は100%であったことから、学生が総合的に満足していることが示された。今回の結果は、回答率の低さから、学生全体の意見を反映した結果とは言い難い点に注意が必要である。次年度も、引き続き、授業の改善に取り組み、学生が主体的に学習し授業外学修を積極的に行える環境を提供できるように務めたい。

■学部・学科 人間文化学部健康科学科
 ■科目名 人間文化学部健康科学科全体
 ■担当者名

■受講登録者数 319
 ■回答者数 53
 ■回答率 16.6%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	47 88.7%	6 11.3%	0 0.0%	0 0.0%	3.89
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	28 52.8%	25 47.2%	0 0.0%	0 0.0%	3.53
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	51 96.2%	2 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	3.96
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	42 79.2%	10 18.9%	1 1.9%	0 0.0%	3.77
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	30 56.6%	23 43.4%	0 0.0%	0 0.0%	3.57
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につ く。	36 67.9%	17 32.1%	0 0.0%	0 0.0%	3.68
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプ リ・ファイルなど)は適切だ。	36 67.9%	17 32.1%	0 0.0%	0 0.0%	3.68
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたくなる。	29 54.7%	18 34.0%	6 11.3%	0 0.0%	3.43
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	37 69.8%	16 30.2%	0 0.0%	0 0.0%	3.70
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	37 69.8%	16 30.2%	0 0.0%	0 0.0%	3.70

■設問別科目平均の範囲と平均値

平均の範囲(当該学部・学科科目)						全学共通 または 専門科目 の平均値
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差	
3.50	3.69	4.00	4.00	4.00	0.22	
3.00	3.00	3.50	3.78	4.00	0.41	
3.50	4.00	4.00	4.00	4.00	0.15	
3.38	3.59	4.00	4.00	4.00	0.25	
3.50	3.50	3.50	3.72	4.00	0.22	
3.38	3.59	3.75	4.00	4.00	0.24	
3.50	3.50	3.75	3.81	4.00	0.20	
2.50	3.38	3.63	4.00	4.00	0.47	
3.50	3.59	3.75	4.00	4.00	0.21	
3.50	3.59	3.75	4.00	4.00	0.22	

【 前 期 】

- 授業科目の概要 経営情報学部（学科別集計）・学科専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 493
- 回答率 42.2%

コロナ禍が続いている中で、昨年度前期に比べて今年度前期は回答率が少しに回復した（今年度：42.2%，昨年度：40.8%）。オンライン回答になったことによる影響であると考えられる。以下、アンケートの設問毎に詳細について考察する。

まず、学生の自己評価に関わる項目として、設問1「わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。」は、肯定的回答の割合が前年度とほぼ同水準の約94.5%であったことから、各科目において学生が真面目に取り組んだことが伺えた。一方、設問2「わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修時間。」は、2時間以上が約45.2%（昨年度：47%）、2時間未満が51.8%（昨年度：54.7%）であったことから、オンライン授業となり授業外学修の時間が微減していることがわかる。また、授業時間外に全く学修をしていない割合は低い傾向である（今年度：3.2%，昨年度：1.4%）。これは、昨年度と同じ傾向である。次に、授業評価の他の項目に関しては少し数字が低下したものの、学生・教員がコロナ禍でオンライン授業に慣れている様子も見られる。

アンケート結果を受けて、コロナ禍の影響で、授業の開講方法が引継ぎオンライン（リアルタイム、オンデマンド）となり、準備期間が短い中での科目担当教員がご尽力された様子がわかった。また、受講する学生とのコミュニケーションのとり方についても、大学ポータル、Teamsなどのツールを活用することで、双方向でコミュニケーションをとるための工夫がなされていた。教員と学生ともに手探りの中で実施されたオンライン授業で、多大なご苦勞の結果、前年度に続いて授業の品質は同程度維持しているといえる。

■学部・学科 経営情報学部
 ■科目名 経営情報学部全体
 ■担当者名

■受講登録者数 1,167
 ■回答者数 493
 ■回答率 42.2%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	193 39.1%	273 55.4%	23 4.7%	4 0.8%	3.33
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	71 14.4%	152 30.8%	254 51.5%	16 3.2%	2.56
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	183 37.1%	269 54.6%	35 7.1%	6 1.2%	3.28
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	124 25.2%	198 40.2%	135 27.4%	36 7.3%	2.83
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	152 30.8%	293 59.4%	36 7.3%	12 2.4%	3.19
Q6 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	158 32.0%	290 58.8%	37 7.5%	8 1.6%	3.21
Q7 この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	173 35.1%	276 56.0%	36 7.3%	8 1.6%	3.25
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	152 30.8%	272 55.2%	56 11.4%	13 2.6%	3.14
Q9 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	151 30.6%	284 57.6%	49 9.9%	9 1.8%	3.17
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	160 32.5%	284 57.6%	41 8.3%	8 1.6%	3.21

■設問別科目平均の範囲と平均値

平均の範囲（当該学部・学科科目）						全学共通 または 専門科目 の平均値
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差	
2.85	3.14	3.28	3.49	4.00	0.27	
2.00	2.37	2.53	2.74	4.00	0.41	
2.50	3.01	3.31	3.46	4.00	0.34	
1.81	2.51	2.78	3.50	4.00	0.56	
2.29	3.00	3.16	3.47	4.00	0.35	
2.55	3.00	3.25	3.41	4.00	0.32	
2.57	3.02	3.27	3.44	4.00	0.32	
2.57	3.00	3.20	3.46	4.00	0.36	
2.56	2.93	3.18	3.45	4.00	0.36	
2.50	3.01	3.27	3.47	4.00	0.36	

【 後期 】

- 授業科目の概要 経営情報学部（学科別集計）・学科専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 106
- 回答率 15.5%

コロナ禍が続いている中で、昨年度後期に比べて今年度後期は回答率がかなり下落した（今年度：15.5%，昨年度：58.4%）。その理由として、今回新しいシステムでのオンライン回答になったことによる影響であるかも知れない。以下、アンケートの設問毎に詳細について考察する。

まず、学生の自己評価に関わる項目として、設問1「わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。」は、肯定的回答の割合が前年度とほぼ同水準の約98.1%であったことから、各科目において学生が真面目に取り組んだことが伺えた。一方、設問2「わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修時間。」は、2時間以上が約64.2%（昨年度：45.2%）、2時間未満が35.8%（昨年度：55.5%）であったことから、オンライン授業となり授業外学修の時間が増加していることがわかる。また、授業時間外に全く学修をしていない割合は低い傾向である（今年度：0.0%，昨年度：2.0%）。これは、昨年度から同じ傾向である。次に、授業評価の他の項目に関しては少し数字が増加していたが、学生・教員がコロナ禍でオンライン授業に慣れている様子も見える。

アンケート結果を受けて、コロナ禍の影響で、授業の開講方法がオンライン（リアルタイム、オンデマンド）授業と対面授業を両立させ、準備期間が短い中での科目担当教員がご尽力された様子がわかった。また、受講する学生とのコミュニケーションのとり方についても、大学ポータル、Teamsなどのツールを活用することで、双方向でコミュニケーションをとるための工夫がなされていた。教員と学生ともに手探りの中で実施されたオンライン授業で、多大なご苦勞の結果、前年度に続いて授業の品質は同程度維持しているといえる。なお、アンケートの結果の解析にはアンケート応答率が低いことで両極端の回答が多かったことに注意が必要である。

■学部・学科 経営情報学部
 ■科目名 経営情報学部全体
 ■担当者名

■受講登録者数 686
 ■回答者数 106
 ■回答率 15.5%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	54 50.9%	50 47.2%	2 1.9%	0 0.0%	3.49
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	22 20.8%	46 43.4%	38 35.8%	0 0.0%	2.85
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	60 56.6%	44 41.5%	1 0.9%	1 0.9%	3.54
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	54 50.9%	29 27.4%	19 17.9%	4 3.8%	3.25
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	47 44.3%	52 49.1%	5 4.7%	2 1.9%	3.36
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につ く。	45 42.5%	52 49.1%	7 6.6%	2 1.9%	3.32
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプ リ・ファイルなど)は適切だ。	49 46.2%	51 48.1%	4 3.8%	2 1.9%	3.39
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたくなる。	37 34.9%	56 52.8%	9 8.5%	4 3.8%	3.19
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	43 40.6%	59 55.7%	2 1.9%	2 1.9%	3.35
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	48 45.3%	49 46.2%	4 3.8%	5 4.7%	3.32

■設問別科目平均の範囲と平均値

平均の範囲(当該学部・学科科目)						全学共通 または 専門科目 の平均値
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差	
3.00	3.33	3.50	4.00	4.00	0.36	
2.00	2.50	3.00	3.30	4.00	0.60	
2.50	3.33	3.57	3.75	4.00	0.38	
2.25	2.80	3.50	4.00	4.00	0.63	
2.87	3.00	3.50	3.67	4.00	0.37	
2.75	3.33	3.50	3.67	4.00	0.40	
2.90	3.33	3.50	4.00	4.00	0.40	
2.53	3.00	3.40	3.50	4.00	0.41	
2.90	3.00	3.43	3.57	4.00	0.36	
2.60	3.33	3.50	3.79	4.00	0.42	

【 前 期 】

- 授業科目の概要 地域創生学部全体
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 1,279
- 回答率 55.9%

地域創生学科の授業評価アンケートの集計結果を外観すると、授業外学修時間に関する項目を除く、全ての項目において、R3年度前期の中央値よりも評価点が上昇していることが確認できる。このことより、学生・教員ともにオンライン授業に慣れてきた（違和感を感じなくなった）こと、ならびに、学部改組により年次進行で新たな学年の授業科目が開講されるようになったことの2点が影響を及ぼしているのではないかと推測される。項目別に観ると、Q1「授業への集中した取り組み」の中央値（3.50）は、昨年度の中央値（3.48）とほぼ同様の評価値であるにも関わらず、Q7「授業に関してさらに学びたくなる」の中央値が（3.35）であり昨年度の中央値（3.11）よりも大幅に上昇していることがわかる。R3年度に新たに2年生科目を受講することでより高度で学生の知的探究心をくすぐる内容の授業が増えたためであると考えられる。

■学部・学科 地域創生学部
 ■科目名 地域創生学部全体
 ■担当者名

■受講登録者数 2,289
 ■回答者数 1,279
 ■回答率 55.9%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	686 53.4%	556 43.3%	30 2.3%	13 1.0%	3.49
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	278 21.6%	501 39.0%	470 36.6%	36 2.8%	2.79
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	629 48.9%	590 45.9%	55 4.3%	11 0.9%	3.43
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	376 29.3%	465 36.2%	323 25.1%	121 9.4%	2.85
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	449 34.9%	745 58.0%	65 5.1%	26 2.0%	3.26
Q6 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	513 39.9%	710 55.3%	44 3.4%	18 1.4%	3.34
Q7 この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	524 40.8%	684 53.2%	61 4.7%	16 1.2%	3.34
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	484 37.7%	677 52.7%	102 7.9%	22 1.7%	3.26
Q9 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	497 38.7%	692 53.9%	76 5.9%	20 1.6%	3.30
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	529 41.2%	673 52.4%	62 4.8%	21 1.6%	3.33

■設問別科目平均の範囲と平均値

平均の範囲（当該学部・学科科目）						全学共通 または 専門科目 の平均値
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差	
2.44	3.40	3.56	3.70	4.00	0.28	
2.00	2.54	2.91	3.28	3.82	0.46	
2.33	3.30	3.42	3.69	4.00	0.31	
1.68	2.60	3.06	3.66	4.00	0.65	
2.32	3.15	3.32	3.42	4.00	0.29	
2.44	3.26	3.39	3.52	4.00	0.29	
2.44	3.28	3.42	3.50	4.00	0.29	
2.34	3.24	3.39	3.52	4.00	0.34	
2.36	3.20	3.38	3.56	4.00	0.31	
2.39	3.28	3.40	3.58	4.00	0.32	

【 後 期 】

- 授業科目の概要 地域創生学部・専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 1,062
- 回答率 25.6%

地域創生学科の授業評価アンケートの集計結果を外観すると、全ての項目において、R3年度後期の中央値よりも評価点が上昇していることが確認できる。この理由として、2年次後期からは全てのコースの専門科目であるコアユニットの開講が開始されたことが多いと考えられる。具体的には、専門に関連する科目は、学部学科共通科目としても、2年前期までに複数開講はしているものの、より高度な授業については未開講であった。そのため、自身の専門に強く関係する科目を受講することによる学生自身の学修に対するモチベーションが高くなったといえる。このことを裏付けるデータも項目別の中央値にみることができる。例えば、Q1「授業への集中した取り組み」の中央値（3.61）となっており、昨年度後期ならびに、今年度前期の中央値である3.45、3.50よりも学期が進むごとに高くなっていることが確認できる。また、Q7「授業に対する総合的な満足度」の今年度後期中央値（3.45）においても、同様に、昨年度後期ならびに、今年度前期の中央値である3.22、3.33よりも学期が進むごとに高くなっていることがそれぞれ確認できる。

ただし、一方では、授業評価アンケートの回答率が25.6%と今年度前期と比べても半数以下に低下していることが問題点である。これは、他学部においても同様の状態となっており、地域創生学部だけの問題ではないかもしれないが、授業評価アンケートの実施手法の工夫（授業時間内に回答させるなど）を大学教育実践センターと連携しながら、学部においても検討を行いたい。

■学部・学科 地域創生学部
 ■科目名 地域創生学部全体
 ■担当者名

■受講登録者数 4,156
 ■回答者数 1,062
 ■回答率 25.6%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	644 60.6%	393 37.0%	24 2.3%	1 0.1%	3.58
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	257 24.2%	415 39.1%	363 34.2%	27 2.5%	2.85
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	582 54.8%	417 39.3%	56 5.3%	7 0.7%	3.48
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	397 37.4%	384 36.2%	185 17.4%	96 9.0%	3.02
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	449 42.3%	522 49.2%	74 7.0%	17 1.6%	3.32
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につ く。	536 50.5%	475 44.7%	48 4.5%	3 0.3%	3.45
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプ リ・ファイルなど)は適切だ。	533 50.2%	482 45.4%	38 3.6%	9 0.8%	3.45
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたくなる。	454 42.7%	516 48.6%	77 7.3%	15 1.4%	3.33
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	508 47.8%	507 47.7%	40 3.8%	7 0.7%	3.43
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	537 50.6%	454 42.7%	62 5.8%	9 0.8%	3.43

■設問別科目平均の範囲と平均値

平均の範囲(当該学部・学科科目)						全学共通 または 専門科目 の平均値
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差	
2.86	3.40	3.61	3.84	4.00	0.29	
1.50	2.61	2.88	3.14	4.00	0.48	
2.50	3.33	3.50	3.70	4.00	0.35	
1.57	2.67	3.20	3.75	4.00	0.67	
2.52	3.00	3.33	3.55	4.00	0.34	
2.67	3.17	3.45	3.69	4.00	0.33	
2.50	3.25	3.50	3.67	4.00	0.34	
2.33	3.02	3.37	3.57	4.00	0.34	
2.67	3.24	3.44	3.66	4.00	0.31	
2.67	3.25	3.45	3.67	4.00	0.35	

【 前 期 】

- 授業科目の概要 生命環境学部・専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 484
- 回答率 34.8%

2年目のコロナ禍の中での前期授業において、回答率は高くないが、昨年度の提出課題の多さや複数ツールの利用に関する不慣れなどのコメントがほとんどない。音声の聞き取りにくいとのコメントもあったが教員と学生の両方がオンライン形式にも概ね対応できるようになったことが窺える。10個の設問内容に対する4段階評価による全体の平均値は3.105で、「強くそう思う」と「そう思う」の合計割合も86.2%で肯定的な授業評価結果であったといえよう。比較的低かったQ2授業外学修時間とQ4能動的学習機会のそれぞれ平均値をみると2.73と2.89で、「強くそう思う」と「そう思う」の割合は60.3%と73.3%であった。Q2授業外学修時間については教員と学生の両方からさらなる工夫が求められていると考えられる。

■学部・学科 生命環境学部
 ■科目名 生命環境学部全体
 ■担当者名

■受講登録者数 1,392
 ■回答者数 484
 ■回答率 34.8%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	179 37.0%	276 57.0%	27 5.6%	2 0.4%	3.31
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	75 15.5%	217 44.8%	177 36.6%	15 3.1%	2.73
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	188 38.8%	245 50.6%	45 9.3%	6 1.2%	3.27
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	113 23.3%	242 50.0%	93 19.2%	36 7.4%	2.89
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	113 23.3%	329 68.0%	33 6.8%	9 1.9%	3.13
Q6 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	132 27.3%	316 65.3%	33 6.8%	3 0.6%	3.19
Q7 この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	136 28.1%	313 64.7%	26 5.4%	9 1.9%	3.19
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	98 20.2%	308 63.6%	68 14.0%	10 2.1%	3.02
Q9 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	119 24.6%	327 67.6%	31 6.4%	7 1.4%	3.15
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	129 26.7%	316 65.3%	32 6.6%	7 1.4%	3.17

■設問別科目平均の範囲と平均値

平均の範囲（当該学部・学科科目）						全学共通 または 専門科目 の平均値
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差	
2.75	3.13	3.24	3.44	4.00	0.25	
2.00	2.42	2.64	3.00	3.75	0.40	
2.63	3.00	3.25	3.47	4.00	0.33	
1.84	2.63	2.92	3.06	4.00	0.45	
2.55	3.00	3.17	3.33	3.75	0.26	
2.68	3.00	3.17	3.33	3.75	0.24	
2.47	3.00	3.19	3.41	4.00	0.30	
2.47	2.93	3.08	3.20	3.50	0.22	
2.45	3.08	3.17	3.28	3.75	0.24	
2.32	3.09	3.20	3.40	4.00	0.30	

【 後 期 】

- 授業科目の概要 生命環境学部・専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 56
- 回答率 11.2%

回答率が 11.2%で非常に低く、集計結果の読み取りに限りがある。この点を考慮しつつ集計結果をみると、10 個の設問内容に対する 4 段階評価による全体の平均値は 3.392 で、「強くそう思う」と「そう思う」の合計割合も 91.8%で非常に肯定的な授業評価の結果であった。オンライン形式が多く含まれたにもかかわらず、Q4 能動的な学習機会があるに対しても 3.38 と非常に高い。他方、Q2 授業外学修時間の 4 段階評価平均値は 2.77、「強くそう思う」と「そう思う」の合計割合は 67.8%で高くない。これについては教員側のコメントよりオンライン形式による具体的な問題点があげられており、教員と学生の両方からのさらなる工夫が求められている。

■学部・学科 生命環境学部
 ■科目名 生命環境学部全体
 ■担当者名

■受講登録者数 501
 ■回答者数 56
 ■回答率 11.2%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	34 60.7%	20 35.7%	2 3.6%	0 0.0%	3.57
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	6 10.7%	32 57.1%	17 30.4%	1 1.8%	2.77
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	36 64.3%	18 32.1%	1 1.8%	1 1.8%	3.59
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	34 60.7%	10 17.9%	11 19.6%	1 1.8%	3.38
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	26 46.4%	28 50.0%	2 3.6%	0 0.0%	3.43
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につ く。	28 50.0%	26 46.4%	2 3.6%	0 0.0%	3.46
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプ リ・ファイルなど)は適切だ。	27 48.2%	27 48.2%	1 1.8%	1 1.8%	3.43
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたくなる。	21 37.5%	32 57.1%	3 5.4%	0 0.0%	3.32
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	22 39.3%	33 58.9%	1 1.8%	0 0.0%	3.38
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	35 62.5%	19 33.9%	2 3.6%	0 0.0%	3.59

■設問別科目平均の範囲と平均値

平均の範囲(当該学部・学科科目)						全学共通 または 専門科目 の平均値
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差	
2.50	3.00	3.33	3.95	4.00	0.55	
2.00	2.50	2.97	3.00	4.00	0.54	
1.00	3.00	3.42	4.00	4.00	0.82	
2.00	2.00	2.50	3.68	4.00	0.84	
2.00	3.00	3.00	3.57	4.00	0.55	
2.00	3.00	3.25	3.57	4.00	0.54	
1.00	3.00	3.00	3.50	4.00	0.79	
2.50	3.00	3.00	3.38	4.00	0.42	
2.50	3.00	3.00	3.50	4.00	0.43	
2.00	3.00	3.33	3.73	4.00	0.65	

【 前 期 】

- 授業科目の概要 生物資源科学部・専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 1,032
- 回答率 54.8%

2年目のコロナ禍の中での前期授業において、昨年度のような提出課題の多さや複数ツールの利用に関する不慣れなどのコメントがほとんどない。また、オンライン形式を支持する声もあることから、教員と学生の両方がオンライン形式にも概ね対応できるようになったことが窺える。4段階評価による10個の設問内容に対する全体の平均値を計算してみると、3.155で高い。「強くそう思う」と「そう思う」の合計割合も88.1%であり、9割近くの学生が肯定的な高い授業評価をした。ただ、比較的低かったQ2 授業外学修時間とQ4 能動的学習機会のそれぞれ平均値をみると2.90と2.83で、「強くそう思う」と「そう思う」の割合は70.2%と67.9%であった。これらについてはオンライン形式の中でもさらなる工夫が求められていると考えられる。

■学部・学科 生物資源科学部
 ■科目名 生物資源科学部全体
 ■担当者名

■受講登録者数 1,883
 ■回答者数 1,032
 ■回答率 54.8%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	424 41.1%	571 55.3%	32 3.1%	5 0.5%	3.37
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	208 20.2%	516 50.0%	301 29.2%	7 0.7%	2.90
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	345 33.4%	578 56.0%	96 9.3%	13 1.3%	3.22
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	209 20.3%	491 47.6%	277 26.8%	55 5.3%	2.83
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	284 27.5%	690 66.9%	54 5.2%	4 0.4%	3.22
Q6 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	296 28.7%	673 65.2%	57 5.5%	6 0.6%	3.22
Q7 この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	310 30.0%	660 64.0%	54 5.2%	8 0.8%	3.23
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	289 28.0%	625 60.6%	97 9.4%	21 2.0%	3.15
Q9 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	289 28.0%	678 65.7%	57 5.5%	8 0.8%	3.21
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	300 29.1%	654 63.4%	67 6.5%	11 1.1%	3.20

■設問別科目平均の範囲と平均値

平均の範囲（当該学部・学科科目）	平均の範囲（当該学部・学科科目）					標準偏差	全学共通 または 専門科目 の平均値
	最小値	25%点	中央値	75%点	最大値		
Q1	1.00	3.29	3.33	3.45	3.58	0.44	
Q2	1.00	2.71	2.95	3.06	3.27	0.41	
Q3	1.00	3.04	3.18	3.34	3.68	0.45	
Q4	1.00	2.61	2.78	3.12	3.57	0.48	
Q5	1.00	3.08	3.23	3.30	3.50	0.42	
Q6	1.00	3.11	3.22	3.30	3.50	0.43	
Q7	1.00	3.10	3.23	3.33	3.53	0.43	
Q8	1.00	3.03	3.11	3.25	3.42	0.42	
Q9	1.00	3.09	3.21	3.30	3.50	0.42	
Q10	1.00	3.09	3.19	3.32	3.58	0.43	

【 後 期 】

- 授業科目の概要 生物資源科学部・専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 550
- 回答率 20.5%

回答率が 20.5%で低く、集計結果の読み取りに限りがある。この点を考慮しつつ集計結果をみると、10 個の設問内容に対する 4 段階評価による全体の平均値は 3.202 で、「強くそう思う」と「そう思う」の合計割合も 88.9%であり、9 割近くの学生が肯定的な授業評価をしていることが窺える。ただ、Q2 授業外学修時間と Q4 能動的学習機会のそれぞれ平均値は 2.85 と 2.93 で、「強くそう思う」と「そう思う」の割合は 65.9%と 72.6%で比較的低い。これらについて教員よりオンライン形式による具体的な問題点や改善点があげられており、オンライン形式の中でもさらなる工夫が望まれる。コロナ禍の影響による授業形式が途中変更となり、実習科目の対応の難しさがコメントされている一方、科目によってはオンライン形式が好意的に捉えられている。今後に向けて具体的な良いところ取りの模索が期待される。

■学部・学科 生物資源科学部
 ■科目名 生物資源科学部全体
 ■担当者名

■受講登録者数 2,684
 ■回答者数 550
 ■回答率 20.5%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	273 49.6%	265 48.2%	11 2.0%	1 0.2%	3.47
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	112 20.4%	250 45.5%	181 32.9%	7 1.3%	2.85
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	213 38.7%	308 56.0%	25 4.5%	4 0.7%	3.33
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	139 25.3%	260 47.3%	122 22.2%	29 5.3%	2.93
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	163 29.6%	342 62.2%	36 6.5%	9 1.6%	3.20
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につ く。	195 35.5%	334 60.7%	16 2.9%	5 0.9%	3.31
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプ リ・ファイルなど)は適切だ。	180 32.7%	344 62.5%	23 4.2%	3 0.5%	3.27
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたくなる。	161 29.3%	328 59.6%	53 9.6%	8 1.5%	3.17
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	173 31.5%	340 61.8%	31 5.6%	6 1.1%	3.24
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	186 33.8%	325 59.1%	31 5.6%	8 1.5%	3.25

■設問別科目平均の範囲と平均値

平均の範囲(当該学部・学科科目)						全学共通 または 専門科目 の平均値
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差	
2.50	3.29	3.49	3.65	4.00	0.32	
1.80	2.64	2.88	3.00	3.40	0.36	
2.00	3.01	3.33	3.45	4.00	0.36	
1.50	2.67	3.00	3.45	4.00	0.54	
1.50	3.00	3.17	3.33	4.00	0.37	
2.50	3.10	3.27	3.40	4.00	0.29	
2.00	3.00	3.23	3.33	4.00	0.30	
2.00	3.00	3.15	3.30	4.00	0.32	
2.00	3.07	3.21	3.36	4.00	0.32	
2.00	3.00	3.26	3.37	4.00	0.32	

【 前 期 】

- 授業科目の概要 保健福祉学部・専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 2,564
- 回答率 50.7%

前半はオンライン授業が中心であったが、後半になって徐々に対面授業が再開された。学生アンケートの回答率は 50.7%であり、オンライン授業が中心だった昨年度前期の回答率 56.1%とほぼ同様であった。

急遽、オンラインでの対応を余儀なくされた昨年度とは異なり、今年度は、多くの教員がこれまで積み重ねた方法論を活かして、授業形態に関係なく授業の双方向性を確保するための様々な取り組みを実践し、より充実させた。例えば、授業内にグループワークやディスカッションを頻繁に取り入れる、オンラインの場合は画面をオンにして学生の反応を確認する、授業後に感想やリアクションペーパーを提出させ、フィードバックをより丁寧にする、学生の疑問から授業を展開するなどであった。

以上の取り組みに加えて、後半からは対面授業が一部再開されたこともあり、学生の学修意欲が向上した。その結果、学生の評価は昨年度と同様に高い水準を維持することができたと考える（Q1「真剣に取り組んだ」3.42, Q10「この授業に満足している」3.23）。その一方で、教員の中には、技能習得を主目的とした授業や実習をオンラインで行うことに限界を感じる者が存在し、学生の中には学外での臨地実習の一部を経験できなかった者もいた。コロナ禍における教育が学生の学びに与える影響を評価すると共に、いかに学生の学習機会を確保し、教育の質を担保するかが今後の課題である。

■学部・学科 保健福祉学部
 ■科目名 保健福祉学部全体
 ■担当者名

■受講登録者数 5,059
 ■回答者数 2,564
 ■回答率 50.7%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	1,121 43.7%	1,396 54.4%	46 1.8%	3 0.1%	3.42
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	526 20.5%	1,138 44.3%	827 32.2%	75 2.9%	2.82
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	877 34.2%	1,505 58.7%	171 6.7%	13 0.5%	3.27
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	868 33.8%	1,321 51.5%	316 12.3%	60 2.3%	3.17
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	698 27.2%	1,742 67.9%	105 4.1%	20 0.8%	3.22
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につ く。	744 29.0%	1,707 66.5%	101 3.9%	13 0.5%	3.24
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプ リ・ファイルなど)は適切だ。	777 30.3%	1,705 66.5%	74 2.9%	9 0.4%	3.27
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたくなる。	703 27.4%	1,717 66.9%	133 5.2%	12 0.5%	3.21
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	697 27.2%	1,765 68.8%	94 3.7%	9 0.4%	3.23
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	726 28.3%	1,725 67.3%	102 4.0%	12 0.5%	3.23

■設問別科目平均の範囲と平均値

平均の範囲(当該学部・学科科目)						全学共通 または 専門科目 の平均値
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差	
3.00	3.28	3.44	3.61	4.00	0.22	
1.00	2.58	2.90	3.07	3.67	0.41	
2.20	3.07	3.33	3.50	4.00	0.30	
2.18	3.00	3.32	3.56	4.00	0.39	
2.69	3.10	3.22	3.36	4.00	0.19	
2.74	3.11	3.27	3.38	3.89	0.20	
2.87	3.13	3.30	3.42	3.82	0.18	
2.81	3.11	3.25	3.36	4.00	0.20	
2.88	3.11	3.24	3.40	4.00	0.19	
2.83	3.10	3.25	3.40	4.00	0.22	

【 後 期 】

- 授業科目の概要 保健福祉学部全体・専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 1,056
- 回答率 24.8%

令和3年度後期のアンケートの回答率は24.8%であり、令和2年度後期の回答率67.1%および令和3年度前期の回答率50.7%を大きく下回った。回答結果を見ると、全ての設問において令和2年度後期および令和3年度前期よりも学生評価は高かった。例えば、Q1「授業に真剣に取り組んだ」は令和2年度後期3.43、令和3年度前期3.42だったのに対して、令和3年度後期は3.56であった。また、その他の設問のほとんどが高い水準を維持していた。この結果は、教員の様々な試みによりオンライン授業の方法論が蓄積されてきたことに加えて、学生がオンライン授業に慣れ、新しい学び方を修得してきた結果だと考えられる。ただし、24.8%という回答率では、学生全体の結果を反映しているとは言えず、回答結果に偏りが生じた可能性がある。

後期の前半はオンライン・対面併用で授業が行われたが、後半は広島県内にまん延防止等重点措置が適用されたことで、急遽オンライン授業で対応することになった。授業形態の急な変更に対応できず混乱した学生が少なからずいたことやオンラインによるアンケート回収の難しさが回答率低下に影響したと思われる。授業評価アンケートの意義や必要性を丁寧に説明し、回答へのモチベーションの向上を図るなど、アンケートの回答率を高める工夫が必要である。

今後は、対面授業を中心に、オンライン・対面併用での授業が展開される。教員コメントによると、未だにネット環境の問題を抱える学生やオンライン授業において自己学修・自己管理の困難さが顕在化した学生が存在する。オンラインによる授業の改善を継続すると共に、急な変更にも対応可能な授業方法を工夫することで、より効果的な学修機会を提供することが求められる。

■学部・学科 保健福祉学部
 ■科目名 保健福祉学部全体
 ■担当者名

■受講登録者数 4,263
 ■回答者数 1,056
 ■回答率 24.8%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	592 56.1%	459 43.5%	5 0.5%	0 0.0%	3.56
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	285 27.0%	409 38.7%	331 31.3%	31 2.9%	2.90
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	450 42.6%	541 51.2%	51 4.8%	14 1.3%	3.35
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	523 49.5%	403 38.2%	106 10.0%	24 2.3%	3.35
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	366 34.7%	648 61.4%	37 3.5%	5 0.5%	3.30
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につく。	395 37.4%	630 59.7%	30 2.8%	1 0.1%	3.34
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプリ・ ファイルなど)は適切だ。	388 36.7%	628 59.5%	36 3.4%	4 0.4%	3.33
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	391 37.0%	630 59.7%	33 3.1%	2 0.2%	3.34
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	390 36.9%	630 59.7%	32 3.0%	4 0.4%	3.33
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	388 36.7%	632 59.8%	35 3.3%	1 0.1%	3.33

■設問別科目平均の範囲と平均値

平均の範囲(当該学部・学科科目)						全学共通 または 専門科目 の平均値
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差	
3.00	3.44	3.60	3.75	4.00	0.24	
1.67	2.55	3.00	3.33	4.00	0.53	
2.00	3.20	3.38	3.60	4.00	0.36	
2.00	3.20	3.59	3.80	4.00	0.49	
2.67	3.14	3.33	3.43	4.00	0.25	
2.50	3.13	3.35	3.57	4.00	0.30	
2.25	3.13	3.33	3.50	4.00	0.32	
2.25	3.17	3.33	3.50	4.00	0.29	
2.33	3.10	3.33	3.50	4.00	0.30	
2.50	3.13	3.36	3.53	4.00	0.31	

【 前 期 】

- 授業科目の概要 保健福祉学部（新規課程）全体 学科（学科別集計）・学科専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 1,450
- 回答率 75.7%

令和3年度からの新課程であり、昨年度との比較は困難である。アンケートの回答率は75.7%と高かった。しかも、Q1「真剣に取り組んだ」3.65、Q10「この授業に満足している」3.43であり、多くの学生が新課程での学びに真剣に取り組み、満足したことがうかがえる。

コロナ禍において大学生活をスタートさせた新課程の学生たちは、前半はオンラインで、後半は一部対面で授業を受けることになった。教員コメントによると、パソコン操作に不慣れな学生やオンライン授業を始めて経験する学生など、ICTリテラシーの低い学生への丁寧な対応やオンライン授業をより充実した内容にするための様々な取り組みが行われていた。以上のような教員の工夫や努力に加えて、後半に一部で対面授業が開始されたことから、概ね充実した授業を展開することができ、学生の授業評価も全体的に高かった。

Q2「授業外学修時間」は2.91、Q4「能動的学修機会がある」は2.95であり、他の設問に比べて低い評価となった。新課程の学生たちは、高校までの受動的な学修とは異なり、大学では能動的学修が求められることを認識できておらず、学修方法が身につけていない可能性がある。また、入学後にいきなりオンラインでの授業を経験した。今後は、授業外に取り組むべき課題を充実させるなど、授業形態に関わらず学生が興味をもって能動的に学ぶための仕掛けや工夫が必要となる。

■学部・学科 保健福祉学部（新課程）
 ■科目名 保健福祉学部（新課程）全体
 ■担当者名

■受講登録者数 1,916
 ■回答者数 1,450
 ■回答率 75.7%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	962 66.2%	482 33.1%	10 0.7%	0 0.0%	3.65
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	387 26.6%	571 39.3%	470 32.3%	26 1.8%	2.91
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	699 48.1%	637 43.8%	93 6.4%	25 1.7%	3.38
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	500 34.4%	484 33.3%	369 25.4%	101 6.9%	2.95
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	614 42.2%	788 54.2%	48 3.3%	4 0.3%	3.38
Q6 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	710 48.8%	718 49.4%	25 1.7%	1 0.1%	3.47
Q7 この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	709 48.8%	704 48.4%	40 2.8%	1 0.1%	3.46
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	671 46.1%	736 50.6%	42 2.9%	5 0.3%	3.43
Q9 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	656 45.1%	730 50.2%	56 3.9%	12 0.8%	3.40
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	674 46.4%	736 50.6%	38 2.6%	6 0.4%	3.43

■設問別科目平均の範囲と平均値

平均の範囲（当該学部・学科科目）						全学共通 または 専門科目 の平均値
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差	
3.32	3.58	3.69	3.74	3.85	0.15	
2.21	2.63	2.93	3.33	3.43	0.41	
2.33	3.23	3.39	3.61	3.72	0.39	
1.86	2.57	2.72	3.41	3.89	0.59	
2.97	3.17	3.38	3.47	3.61	0.19	
3.17	3.30	3.48	3.58	3.64	0.16	
3.08	3.28	3.42	3.55	3.63	0.16	
3.15	3.29	3.45	3.52	3.74	0.16	
2.93	3.23	3.44	3.51	3.67	0.20	
3.16	3.27	3.44	3.50	3.64	0.16	

【 後 期 】

- 授業科目の概要 保健福祉学部（新規課程）全体・専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 2,180
- 回答率 41.0%

アンケートの回答率が 41.0%であり、前期の回答率 75.7%に比べて大きく低下した。これは旧課程の学生のアンケート回答率と同様の傾向を示しており、授業評価アンケートの意義が理解されていないことやオンラインで回答を促すことの難しさが要因と考える。評価結果がどのように扱われるか等、学生評価の必要性を丁寧に説明し、回答へのモチベーションを高める取り組みが必要である。ただし、評価結果は、Q1「真剣に取り組んだ」は 3.65、Q10「この授業に満足している」は 3.49 と高く、その他の設問においても前期とほぼ同様に高い水準を維持していた。

後期の前半はオンライン・対面併用で授業が行われ、後半は広島県内にまん延防止等重点措置が適用されたことで、急遽オンライン授業で対応することになった。大学での学修やオンライン授業に慣れてきたことや一部でも対面授業を経験したこと等が、学生の学修意欲や満足感を向上させたと考える。

Q4「能動的学修機会がある」は 3.00 であり、前期の 2.95 よりもわずかではあるが上昇した。1 年間の積み重ねにより、学生が大学での学修に慣れ、自分なりの能動的学修の方法を身に付けていることがうかがえる。ただし、Q2「授業外学修時間」は前期 2.91 から後期 2.89 へ、わずかであるが低下した。授業方法や授業内容の充実に加えて、授業時間外に取り組むべき課題をより能動的な学修に結びつけるための工夫が必要である。

■学部・学科 保健福祉学部（新課程）
 ■科目名 保健福祉学部（新課程）全体
 ■担当者名

■受講登録者数 2,180
 ■回答者数 894
 ■回答率 41.0%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	593 66.3%	293 32.8%	8 0.9%	0 0.0%	3.65
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	217 24.3%	381 42.6%	281 31.4%	15 1.7%	2.89
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	454 50.8%	384 43.0%	47 5.3%	9 1.0%	3.44
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	333 37.2%	296 33.1%	193 21.6%	72 8.1%	3.00
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	434 48.5%	433 48.4%	26 2.9%	1 0.1%	3.45
Q6 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	474 53.0%	397 44.4%	22 2.5%	1 0.1%	3.50
Q7 この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	454 50.8%	410 45.9%	27 3.0%	3 0.3%	3.47
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	451 50.4%	419 46.9%	20 2.2%	4 0.4%	3.47
Q9 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	436 48.8%	431 48.2%	23 2.6%	4 0.4%	3.45
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	465 52.0%	400 44.7%	27 3.0%	2 0.2%	3.49

■設問別科目平均の範囲と平均値

平均の範囲（当該学部・学科科目）	平均の範囲（当該学部・学科科目）					標準偏差	全学共通 または 専門科目 の平均値
	最小値	25%点	中央値	75%点	最大値		
Q1	3.36	3.62	3.75	3.86	4.00	0.17	
Q2	2.27	2.67	2.88	3.11	3.70	0.36	
Q3	2.23	3.28	3.43	3.63	3.86	0.33	
Q4	1.82	2.75	3.46	3.68	4.00	0.59	
Q5	3.05	3.38	3.45	3.66	3.83	0.18	
Q6	2.95	3.42	3.60	3.70	4.00	0.22	
Q7	2.92	3.41	3.54	3.66	4.00	0.22	
Q8	2.85	3.44	3.59	3.67	3.86	0.21	
Q9	2.97	3.41	3.56	3.68	4.00	0.23	
Q10	2.87	3.48	3.62	3.67	3.86	0.22	

全学共通教育科目

【前期】

- 授業科目の概要 全学共通教育科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 5,096
- 回答率 64.8%

【総評】

令和3年度前期も昨年度に引き続きコロナの影響でオンライン授業が主流となった(5月以降)。オンライン授業では、学生の学修の様子(学修態度)が見えづらいこともあるため、課題の提出、その成果によって評価することが多くなる。Q3の「授業時間外に取り組むべき課題が示されている」という項目において、95.7%が肯定的に回答している。この項目の平均値は3.37である。関連して、「授業外学修時間」を問うQ2の平均値は2.86である。対面授業が主流であったときは、ここまで高くはなかった。たとえば、平成29年度前期の全学共通教育科目の全体集計を見ると、Q3の肯定的評価割合は83.8%であり、同項目の平均値は3.23である。そして、「授業外学修時間」を問うQ2の平均値は2.47であった。このように見ると、授業時間外に取り組む課題の提示(教員側)と、授業時間外の学修(学生側)が浸透しつつあるのかもしれない。なお令和3年度のアンケートから、授業時間外の学修時間を問うQ2は、クォーター制に適合するよう修正が施されている。

令和3年度前期の「能動的学修機会」について問うQ4の肯定的評価割合は83.3%であり、平均値は3.15である。オンライン授業では、対面授業に比して、授業の運営や方法について様々な制約があり、能動的学修機会の提供は比較的困難とも思えるが、その点を考慮すると3.15は高い数値であると思われる。各教員が昨年度の経験を活かしつつ、創意工夫を凝らした成果であると考えられる。ちなみに平成29年度前期におけるQ4の肯定的評価割合は、74.6%であり、平均値は3.08であった。

以上のとおり、オンライン授業が主流となった令和3年度前期も、対面授業に引けを取らない教育的成果があったと思われる。しかし、令和2年度よりアンケートの回答形式がweb回答になったため、回答率が64.8%と総じて高くなかった点は注意せねばならない。回答がマークシート形式であった平成29年度前期の回答率は、92.3%であった。

【初年次導入】

初年次導入は学部学科再編に伴い昨年度から始まった科目で、該当科目は大学基礎セミナーⅠ、大学基礎セミナーⅡである。それぞれ、3キャンパスで広島14名・庄原10名・三原13名の教員

が1人当たりおよそ15名前後の学生を担当して行う科目である。

昨年度はコロナ禍の影響により8週が7週となり、かつオンライン授業導入当初であったためずいぶんと混乱が見られたが、本年度は当初予定の8週の授業を行う事ができた。但し、ほとんどオンラインであった。ただ、担当教員はほとんど変わることがなかったため昨年度よりはスムーズに授業を行う事ができたのではないかと考える。また、昨年度になかった工夫も散見され、それが授業評価アンケートの点数を押し上げたと考える。なお、回答率が若干低いため各担当教員が協力して回収率を上げる工夫は必要ではないかと考える。今後1年生が最初に学ぶ授業のため対面授業になる可能性が高く、対面授業を主としつつオンラインの良さを生かした授業設計はまだ考える余地があると考え、今後の課題である。

【情報】

今年度は、昨年度に引き続き演習科目であるICTリテラシーIも大部分がオンライン講義として実施した。オンライン講義2年目ということもあり、昨年度の状況も踏まえた工夫も行っていた様子も見受けられ、担当の先生方の尽力により、滞りなく授業が実施できたことに感謝したい。各先生のコメントを見る限り、一定のレベルの授業を提供することができたと評価している。

【外国語（英語）】

前期授業開始直後は対面授業も可能であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続き、5月からはオンライン授業のみの実施となった。各教員のコメントからは、前年度のオンライン授業を踏まえて授業改善の取り組みがなされ、双方向性の確保やアクティブラーニングの推進などが行われたことがうかがえた。Teamsにもブレイクアウトルームの機能が追加されたことで、ブレイクアウトルームの活用が進み、授業中に会話練習などを行うことも可能となった。何より、受講者間の交流機会の増加に寄与したと思われる。リアルタイム配信の授業も録画することができる点は以前からオンライン授業の利点であったが、授業を欠席した際に視聴できるだけでなく試験やレポートの準備に活用できること、つまり授業外学修での活用が可能であることが受講者に好評であることがうかがえた。英語総合の担当教員コメントは極端に少なかった。また、英語表現の担当教員コメントはなかった。そのため庄原・三原キャンパスと広島キャンパスとで開講科目が異なることを考慮せずコメントを参照することができたが、より多くのコメントが記録されているべきであった。コメントの保存において問題が起きたのかもしれないし、コメントを作成した教員が少なかったのかもしれない。原因の特定は容易でないが、現行の授業評価アンケートシステムの操作がわかりにくいことも一因かもしれない。また、オンラインで回答する方式となったことにより、受講者の自由記述コメントの量は増えた一方、回答率が低下したことなども今後の課題だと言える。

【外国語（英語以外）】

担当教員からのコメントを見ると、「わかる」と「できる」のギャップがオンラインではなかなか埋められていないという外国語科目共通の悩みが表れていた。外国語科目で重要になるインタラクティブの機会をオンラインでどのように保証するのか、模索が必要な学期であった。これに関しては、受講生の反応を把握することを改善するためにカメラをオンにしてやりとりをする時間を設けるといった対応があった授業があった。また、オンラインの利点を活かして、他キャンパスの学生との交流を授業に盛り込むという対応がとられることもあった。コロナウイルスへの対応の必要がなくなった後であっても、各授業の受講生の言語レベル、ニーズ、人数に合わせて、より効果的な授業形態を選択していく柔軟性が組織に求められる。授業評価アンケートへの教員コメントの入力は低調であったので、フィードバックの周知の方法を検討したい。

【スポーツ・保健体育】

庄原キャンパスの教員のみでの回答しかない（開講時期が異なる）ので、偏りはあるものの、意図しなかったこととはいえ、学生が散歩レベルでも屋外に出たことは学生の精神衛生に良かったと思われる。凶らずも地域の方との交流を経て、学生も孤立することなく受講を終えたことに安堵を覚えた。昨年度の振り返りから、学生が容易に取り組みやすいように、自分の生活スタイルを優先させ、それに合った形式で課題をこなすことが出来るようにしたことは良かったと思う。

【学際知（人文系）】

結果はまずまずだった。コロナ騒ぎも2年目で、オンライン式も板についてきてしまったという所だろうか。もちろん、高評価を受けているのは、あくまで各教員の専門を生かした講義内容や、三人のオムニバス形式による講義内容の多様性に対してであり、事の本質は、手法でなく講義の中身に関わっていると言える。教員が生き生きと研究していることが大前提であろう。

大過無しと、ここで総括を終えてもよい所であるが、今後に向けコメントをいくつか付したい。

- 1) アンケートの設問 A2（授業外学修時間）については、昨年度の不備に早速ご対応いただきました。そこまではよいが、すると気になるのは次の点である。2倍の学修時間を要求した今年度の結果は、昨年度に比して大きく落ち込むという予想が立つが、蓋を開けてみて、どうか。試みに筆者担当の某同一科目（回収率が2年連続で8割以上の三原 C のもの）で確認すると、昨年度は「強くそう思う」31%、「そう思う」69%（13名回答）であったのに対して、今年度は「強くそう思う」38%、「そう思う」62%である（21名回答）。換言すれば、昨年度：「4時間以上が31%、2・4時間が69%」、今年度：「8時間以上が38%、4・8時間が62%」だったことになる。これをどう見るか。
- 2) この度、人文系科目は2科目の様子が報告されるのみであったが、その内訳は、3キャンパス全受講者数が127名の科目（当該科目の担当教員3人、オムニバス講義）と、175名の科目（担当教員1人）だった。どちらも履修者は多いように思われる。さらにその両科目間の比較で、科目あたり教員投入数に3倍の開きがあれば、それがそのまま科目

間の講義負担差にもなっていよう。いずれにせよ、さしあたり次の諸論点について考慮が必要ではないか。コロナ騒動が収束するとして、どのように対面に戻していけるか(3キャンパス移動も加わればさらに負荷が増す)。あるいはオンラインの良さを残すのか(その場合、どのように教育の質を保つのか)。履修者制限(抽選)の必要はないか。適切な教員配置について見直しの余地はないか、等々。

- 3) B2 設問文の適否も指摘されている。アクティブラーニング(=AL)は「深い学び」に繋がらなければ意味が無いが、おしゃべり=ALのように勘違いもされやすい。元々初等教育等で生じやすかった誤解が、大学でも生じていないか注意が必要である。Cf.『ディープ・アクティブラーニング』『教育現場は困ってる：薄っぺらな大人をつくる実学志向』。
- 4) 最後に次の点に触れておきたい。教員には十分な研究時間、学生には十分な学修時間が必要である。ところが、上記1)の結果を見ても感じるのだが、日頃、学生は増えるばかりの「作業」に振り回されていないだろうか。毎年繰り返すようで恐縮だが、大学の「時間」について深い見識が不可欠である(余談ながら、最近本学教員の研究エフォート調査があったようで、参考までに、国内大学の平均をここに付記しておく:H14年:46.5%, H30年:32.9%。Cf. 文部科学省「2018年度大学等におけるフルタイム換算データに関する調査報告書」)。

【学際知(社会系)】

各担当教員が1つの授業の中でも、オンデマンド型、リアルタイム型、対面型の複数の授業方法を取り入れるなどして、授業方法を工夫していることがわかった。オンライン授業においては通信環境の不安定さが常に課題となる。その点に関連して、チャットによるグループワークの方法を取り入れることで、その課題をクリアしている授業もあった。受講生どうしの意見交換の場であるだけでなく、教員もそこにコメントすることで教員と受講生とのやりとりも可能になっており、オンラインのメリットを生かしたアクティブ・ラーニングの取り組みとして高く評価できよう。

【学際知(自然系)】

昨年度に行ったオンライン授業の経験やアンケートを踏まえ、適切にリアルタイム・オンデマンドによる授業実施を行ったと見受けられる。毎回の授業でアンケートを介して質問を受け付け、翌週の授業でそれに対する回答を行う科目もあった。また、科目によっては回答者全員が「授業形態としてオンライン授業が適切」としたものもあり、来年度(以降)、基本的に対面に戻すという本学の方針が最適かどうかについては科目の特性などを踏まえた検討が必要なように思われる。

【論理思考表現】

今年度新たに開講されたプレゼンテーション演習については、当初の予定とは異なり多くがオンラインでの実施となったが、授業評価アンケートを見ると肯定的な結果や意見が多く、授業内

容・方式に関して概ね学生からの一定の評価が得られたといえる。一方で、各担当教員のコメントを見ると、履修者同士の意見交換を増やす必要性や、学生による相互評価を用いた成績評価の留意点（教員視点での評価と相違）が挙げられており、各キャンパスにおける担当教員間での意見交換や情報共有と授業内容の改善が必要だと思われる。アンケート結果の回収率の低さを指摘する声が多くあった。

【地域課題】

学生からは概ね高い評価が得られている。オンライン授業も前年度の経験も活かして改善されてきており、比較的スムーズに実施されている。一方で、対面授業やフィールドワークを希望する声もあることから、これまでのオンライン授業での経験や工夫も積極的に活用し、今後のハイブリッド授業や対面授業についてより効果的な設計を検討して欲しい。

【キャリア開発】

オンライン講義となったが、グループワークによる演習を多く実施する、Zoom のアンケート機能を用いる、など、双方向性を担保する工夫を行っている。そのため、能動的学習機会に関する問いに対して、「そう思う」と「強くそう思う」が多くなっている。オンラインでの実施については、前向きに評価するコメントが複数見られた。

【ダイバーシティ】

今年度前期に開講されたダイバーシティ科目は庄原キャンパスの「人権論」（夏季集中講義）のみであった。いわゆるコロナ禍のもとオンラインでの実施を余儀なくされたが、内容を精査するとともに運営方法を工夫することで、学生・教員双方に負担にならないような配慮がなされている。また、Teams を活用し、課題の提出を介した受講者とのやり取りに務めていることもうかがえる。集中講義の問題点に関する問題提起については、その意を重く受け止めたい。

なお、「海外研修」については特にコメントを求めているが、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大が学生の海外における学びにも大きな影響を及ぼしていることが懸念される。

■学部・学科 全学共通教育科目
 ■科目名 全学共通教育科目全体
 ■担当者名

■受講登録者数 7,863
 ■回答者数 5,096
 ■回答率 64.8%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	3,000 58.6%	2,027 39.6%	74 1.4%	15 0.3%	3.57
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	1,068 20.9%	2,218 43.4%	1,709 33.4%	121 2.4%	2.83
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	2,656 51.9%	2,239 43.8%	187 3.7%	34 0.7%	3.47
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	2,046 40.0%	1,874 36.6%	955 18.7%	241 4.7%	3.12
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	1,990 38.9%	2,851 55.7%	246 4.8%	29 0.6%	3.33
Q6 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	2,124 41.5%	2,796 54.7%	179 3.5%	17 0.3%	3.37
Q7 この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	2,181 42.6%	2,749 53.7%	168 3.3%	18 0.4%	3.39
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	1,777 34.7%	2,895 56.6%	409 8.0%	35 0.7%	3.25
Q9 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	2,089 40.8%	2,803 54.8%	203 4.0%	21 0.4%	3.36
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	2,183 42.7%	2,708 52.9%	200 3.9%	25 0.5%	3.38

■設問別科目平均の範囲と平均値

平均の範囲（当該学部・学科科目）						全学共通 または 専門科目 の平均値
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差	
2.73	3.40	3.58	3.78	4.00	0.26	
1.50	2.64	2.90	3.09	4.00	0.41	
2.00	3.30	3.54	3.70	4.00	0.32	
1.00	2.75	3.30	3.75	4.00	0.60	
2.00	3.17	3.33	3.50	4.00	0.28	
2.00	3.20	3.40	3.57	4.00	0.28	
2.86	3.24	3.41	3.56	4.00	0.25	
2.00	3.07	3.27	3.43	4.00	0.31	
2.50	3.20	3.38	3.56	4.00	0.27	
2.00	3.20	3.41	3.58	4.00	0.30	

全学共通教育科目

【 後期 】

- 授業科目の概要 全学共通教育科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 1,968
- 回答率 31.0%

【総評】

令和3年度後期は、秋頃からコロナ感染状況が落ち着いたこともあり、対面授業の機会が増えつつあったが、年明けから急激に感染者が増加したため、後期の終盤は原則オンライン授業となった。

令和3年度後期のアンケート回答率は、前期の半分以上となり、31.0%であった。著しく低い数値である。この傾向は、すべての学部・学科（コース）の専門科目でも同様である。年度の後半となり、学生もオンライン授業に疲れてしまい、さらに大学から来る種々のアンケート回答依頼に疲れ、対応することが煩わしくなったのかもしれない。アンケート結果を受けた「担当教員コメント」を拝見すると、回答率の低さを問題視し、アンケートの意義やそれを踏まえた教員コメントを入力（作成）する意義に疑問を呈するコメントも散見された。

マークシート形式から web 回答形式に移行した際（令和2年度）、回答率が下がることは容易に予想することができた。令和3年度前期も全体として回答率が低かったため、後期アンケート実施にかかる通知文に「授業時間内にアンケート回答時間を確保する」ことを求める一文が追加された。授業の最終回に、10分程度のアンケート回答時間を確保することができれば、状況はある程度改善すると思われる。

回答率が著しく低いアンケート結果を見ても参考にならないのはそのとおりであるが、そうならないための工夫は各教員で行うこと可能である。web 回答形式の授業アンケートは、かつてのマークシート形式と同様に、授業時間内に実施するというスタイルを定着させる必要がある。

【情報】

後期期間も新型コロナウイルスの影響が大きく、演習科目の ICT リテラシーⅡにおいては、一部の時間は対面授業を実施することができたが、対面授業とオンラインが混在した実施形態となった。オンライン講義2年目ということもあり、オンラインであっても、おおむね円滑に授業を実施することができたようである。各先生にしっかりと対応いただけたことに感謝したい。学生からは、オンライン講義にメリットを見出す声も一定数見受けられるようであり、今後は対面方式とオンライン方式の利点をそれぞれ生かすような方策も検討が必要かもしれない。

【外国語（英語）】

後期は11月から12月にかけての新型コロナウイルス感染症拡大状況改善のおかげで対面授業も実施することができた。その後1～2月は未曾有の感染爆発によってオンライン授業となったが、一時的にでも対面授業が行われたことはよかった。庄原・三原キャンパスと広島キャンパスとで後期開講科目が異なる（例：庄原と三原は共に選択科目の英語総合Ⅲが第3Q、英語総合Ⅳが第4Qに開講されるが広島では必修の英語総合Ⅱと選択の英語総合Ⅳが第3Q・第4Qにまたがって開講される）。この点に留意して各教員のコメントを参照した。全体的に、アンケート回答者数が少ないということ指摘することができる。対面授業の時代、受講者は授業終了後に配付された調査票に手書きで回答していたため回答率ははるかに高かった。しかし多くの場合、休憩時間など、次の授業までの合間が回答時間であった。オンライン化したおかげで、より時間をかけて授業を振り返り、評定を行い、自由記述コメントを入力することが可能となったと思われる。そのようなプラスの側面もあるかもしれないが、オンライン化後の回答率の低下については、何らかの方策をとる必要があるのかもしれない。選択科目については「受講者が少ない」というコメントが多く見られた。だが少ないことをマイナス要因と捉えるのは短絡的である。英語科目を数多く担当可能な常勤教員の数は限られているが、そのような状況下であっても少人数での授業を実施することが可能となったと考えることもできる。今年度は2年生の英語科目が選択科目となって初めての開講だったので、受講者数を事前に予測することができず、授業形態などについて、準備段階では手探りの状態であった可能性があるが、今後の受講者数の推移に注目し、準備を万全なものとしていくことが期待できる。コメントからは、オンライン授業において、提出課題へのフィードバックのコメントを充実させる、振り返りシートなどで集めた受講者のコメントや質問に答える、などの方法で受講者とのやりとりを増やすことが効果的であったことがうかがえた。この点は対面授業全面再開となっても授業の運営と改善に生かすことができるものと思われる。また、対面授業とオンライン授業とをスムーズに移行できるような工夫がなされると、学習・学修の機会が得られたかどうかに関する受講者の満足度を向上させられる可能性があることを示唆するコメントも見受けられた。まだ新型コロナウイルス感染症パンデミックは完全には収束していないため、来年度からは、対面授業とリアルタイムオンライン授業がミックスされたハイフレックス型授業を推進することで、授業の質と学生の満足度をどちらも向上させていくことが期待されているのではないかと感じた。英語総合の担当教員コメントは、前期分よりも多くの科目について参照できたが、回答数ゼロの科目などもあったためか、全科目分を参照することはできなかった。また、英語表現の担当教員コメントはなかった。今後、より多くの科目について担当教員のコメントが得られるようになることが望まれる。

【外国語（英語以外）】

担当教員からのコメントを見ると、対面において前期分の内容が従来の学期より身につけてないことが判明し、前期内容を復習した上での後期授業内容を積み重ねるというように、外国語科目の課題が表れていた。これに関しては、対面での学修機会が少なかったことによると思われる。

共通の課題を抱えた担当も多いのではないかと。外国語科目で重要な知識とスキルの積み上げをオンラインでどのように保証するのか、課題が顕在化した学期であった。これに関しては、毎回、授業前に動画をアップロードし、十分な予習時間が確保できるように工夫をした授業があった。オンラインの特性を生かした結果、学生の授業参加率もかなり高く、しっかり予習をした上で、リアルタイムオンライン授業に参加したので円滑に授業を行うことができたという報告もあった。授業形態の特性を生かして、より良い学修につなげられるような工夫が引き続き求められる。授業評価アンケートへの受講生の回答、および教員コメントの入力は、いずれも低調であったので周知の方法を検討したい。

【スポーツ・保健体育】

まず、全科目学生の回答率がかなり低く、セレクションバイアスがかかっていることは間違いなく、教員のコメントも断片的な情報か、一部の情報を鵜呑みにしている危険性があることを指摘しておきたい。学生が行う Forms への回答は画面オフ状態で行われるため、確実に回答されているかは分からない。従前行われていた紙面での回答でも、不適切な態度での回答があることは以前から指摘されていたが、学生評価の意義を再度学生に考えてもらうなどの対策が必要であると考えられる。

断片的な情報から感じられることは、保健体育領域に関しては昨年時と本年度では学生の態度に変化があると感じられた。オンライン授業での報道が過熱された昨年度は、学生自身もリアルタイム授業への期待感があったであろうが、結果的に画面オフ問題が解決されたわけではなく、オンデマンド等への不満が高かったものの、今年度になって2年目を迎えた学生はリアルタイム授業や対面授業への「積極性」よりも「自己都合」を優先させていたと思われた。

少なくともここで言えることは、1年次にできる限りの対面授業を通じて、体を動かすことの楽しさ・うれしさの延長として、高等教育の中でスポーツ等を行うことや健康について考えることの意味を深掘りできる環境整備を行う必要があるだろう。

三原キャンパスでは来年度から非常勤講師のみの運用になるので、今後は非常勤講師の授業評価も集計しなければならない。

【学際知（人文系）】

「サイタ」「サイタ」「過去最多」と何度聞かされただろう。おかしな年度だった。人文系の流儀として、そうした違和感は少し書き残しておきたい。「PCR陽性者」を「感染者」と呼ぶミスリード（鼻腔の「花粉」を検出して「花粉症」と診断するかのような飛躍）が容認され、その数字が連日報じられる中、騒動2年目は、有効率95%という触れ込みで臨床治験中「ワクチン」の接種が始まったかと思うと、2回の「完全接種（fully vaccinated）」のはずが「ブレークスルー感染」「ブースター接種」へと展開した。副反応リスクなどを発信していたyoutubeチャンネルが、夏頃から次々banされていくという出来事もあった（なお厚生労働省は12月に「心筋炎」などを重大な副反応と認定）。このように錯綜した状況で、冷静に自分で一次情報をバランスよく探し出し、

多角的・論理的に考え分析し、事の本質を見極め、大局を判断できるような人がいたとすれば、それは実は、人文系科目の高度な訓練を受けた人ではなかったか。

さて本題であるが、今回、どの科目もアンケート回収率は高くないとはいえ、結果好評との報告が大半を占めているようである。オンラインに向いている科目、向かない科目といった違いもきっとあろうが、いずれにせよ学生との双方向性や、学生のアウトプットを促す授業設計（「コメントスクリーン」なるアプリもあるとのこと）が、成功の鍵にはなりそうである。

課題も浮上している。例えばフィールドワークやグループワークを含む科目から、次の問いが提示されている。座学ならまだしも、3キャンパスを繋ぐ教員1人の授業の場合、対話的なアクティブラーニングをどうやって実現するのか、できるのか。つまり「3キャンパスを遠隔で繋ぐという（そもそも無理筋と思われる）本学の全学共通科目の授業実施方法に問題」はないだろうか、と。また、その他、次のような声もある。履修者の多い科目（180名以上）において、TV録画などを多用する講義の場合、教育の質を保つために「旧遠隔システム」を残してほしい、と。

こうしたことは、元をたどれば、適切な教員配置の問題でもあるだろう。共通教育科目については、原則として、同一科目を教えられる教員が各キャンパスに配置されるべきである（同一科目に本学として3人の教員が必要）。そうでなければ、各キャンパス事情に合わせた講義は難しいであろう。「特例」としてなら、1人か2人の教員が複数キャンパスを廻るということもあってもよいのかもしれないが、その常態化は避けるべきであるし、やむをえず「特例」適用の場合は、当該教員には特別なフォローが必要であろう（学内の仕事配分配慮や、担当コマ数上限配慮、隔年開講を許可する柔軟性確保、SAの3キャンパス全回配置など）。最後に『MIT 白熱教室』という物理学講義のナレーションの一節を紹介したい。曰く、「その完成度の高い講義は、毎回50時間以上かけてプランを練り、無人の教室でリハーサルを繰り返す完璧主義から生まれます」。観ると、なるほど芸術品のような講義である。一般の人々を含む全聴講者を魅了し、かつ深い。そうした講義に加え、世界の第一線の研究に参加できるとなれば、さぞかし学生は満足だろう。そんな大学は学生募集などしなくても、勝手に集まりそうである。日本の大学においても、「やっている感」とは無縁の、本質を見誤らない「改革」が求められている。1科目の授業準備に週50時間必要だ。

【学際知（社会系）】

3キャンパス合同で実施する授業の場合、遠隔講義とオンラインと対面授業の併用が困難だったという担当教員によるコメントがあった。複数のキャンパスで合同実施する遠隔授業の場合、オンラインと対面の併用については事前にやり方を十分検討する必要がある。また、Teamsを活用することで他キャンパスの受講生どうしのやりとりがスムーズになるというメリットがある一方で、通信環境の不安定さや対面でお互いの表情を見ながら行うグループワークと比較した場合の意見交換の困難さがある。今後、遠隔方式の対面授業を実施しながら、複数キャンパス間の意見交換をスムーズにする方法を検討することが共通の課題であるだろう。

受講生から提出された課題へのコメントや評価、あるいは、受講生の考えを深めるための教員からの質問などに対して、受講生の側が教員の側の意図を十分に理解できず、否定的な反応を示

したことが複数の教員のコメントで見られた。効果的な学修のために、教員は教授することの目的や意図を繰り返し丁寧に説明して、履修生の理解を促すことが重要だと考えられる。

【学際知（自然系）】

後期においては、Q4に開講した科目の中に対面で開始したもののオミクロン株の流行により途中からオンラインへと変更せざるを得ず、その移行に苦労したと思われるが散見された。また、数学・統計関連科目では授業内で問題演習を行ったものがあり、これについて「オンラインでは学生が実際に解いている様子が掴みにくい」というコメントがあった。対面が可能であった時期においては、演習を行う対面授業と解説を行うオンライン授業を組み合わせるといった工夫も見られ、内容に応じた適切な授業形態の選択が重要であると考えられる。この他、毎回のクイズや課題などを通して学生の理解度を把握しようとした科目もあった。

【論理思考表現】

アカデミック・ライティングについては、グループワークや学生同士のディスカッションが多く行われており、学生による評価も肯定的なものが多いようである。昨年度から開講された科目であることから、各担当教員が学生の主体性を高める取り組みや授業内容のアップデートを行うなど昨年度から改善がなされた結果だと考えられる。

クリティカル・シンキングは、他科目と同様に評価アンケート結果の回収率が低く、学生によるフィードバックが十分に得られていないという指摘が記載されていたが、担当教員のコメントを見る限り、学生からは概ね好意的な評価が得られている。各担当教員がそれぞれの方法で学生の理解度を把握し、授業内容や資料の改善がなされている。来年度は担当しないという教員が複数いることから、授業の質を高める上でも、担当教員の固定化や新担当者への引継ぎ・情報提供が重要だと思われる。

【地域課題】

キャンパスごとに受講者の状況が異なるため、講義の構成や受講者の発掘に工夫が必要となっているが、その中でも、リアルタイム、オンライン、動画配信を組み合わせることでディスカッションやプレゼンテーションを行うことで、学生から肯定的な評価を得ている。一方で、ディスカッション等を行うには受講生が少ない科目も多くみられており、一層のシラバスの工夫等により、講義内容についての積極的なアピールを行って欲しい。

【キャリア開発】

オンライン、対面それぞれのメリットを活かせるように授業を構成しており、自由記述のコメントからは、学生もそのように評価していることがうかがえる。授業時間外に課題に取り組む際に Teams をうまく活用している例が多いため、能動的学習機会に関する質問では、大半が「強くそう思う」と回答している。

【ダイバーシティ】

ダイバーシティ科目は、その開講時期が後期に集中しているが、コメントの入力が入力された科目は「人権論」（広島・三原）および「世界の言語と文化」（広島・庄原・三原）にとどまった。前者はキャンパスごとに開講されたが、それぞれの状況に合わせて運営方法を工夫するとともに受講者からの意見を吸い上げることに苦心している様子が見えてくる。学生のことばを真摯に受け止める教員の姿勢に学びたい。後者はオムニバス形式により、3キャンパス合同で300名を超える受講者を対象にオンラインで実施された。科目内容を充実させるとともに、学生との双方向性を担保すべく工夫がなされている。

前期と同様、「海外研修」については特にコメントを求めているが、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大が学生の海外における学びに大きな影響を及ぼしていることが懸念される。

■学部・学科 全学共通教育科目
 ■科目名 全学共通教育科目全体
 ■担当者名

■受講登録者数 6,345
 ■回答者数 1,968
 ■回答率 31.0%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	1,171 59.5%	764 38.8%	32 1.6%	1 0.1%	3.58
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	339 17.2%	788 40.0%	795 40.4%	46 2.3%	2.72
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	1,051 53.4%	797 40.5%	105 5.3%	15 0.8%	3.47
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	834 42.4%	745 37.9%	310 15.8%	79 4.0%	3.19
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	835 42.4%	973 49.4%	122 6.2%	38 1.9%	3.32
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につく。	845 42.9%	1,019 51.8%	92 4.7%	12 0.6%	3.37
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプリ・ ファイルなど)は適切だ。	915 46.5%	945 48.0%	89 4.5%	19 1.0%	3.40
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	704 35.8%	1,052 53.5%	180 9.1%	32 1.6%	3.23
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	835 42.4%	1,026 52.1%	84 4.3%	23 1.2%	3.36
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	932 47.4%	915 46.5%	88 4.5%	33 1.7%	3.40

■設問別科目平均の範囲と平均値

平均の範囲(当該学部・学科科目)	平均の範囲(当該学部・学科科目)					標準偏差	全学共通 または 専門科目 の平均値
	最小値	25%点	中央値	75%点	最大値		
Q1	3.00	3.47	3.63	3.83	4.00	0.28	
Q2	2.00	2.50	2.78	3.00	4.00	0.50	
Q3	2.00	3.29	3.56	3.79	4.00	0.37	
Q4	1.00	2.82	3.38	3.83	4.00	0.62	
Q5	2.00	3.13	3.40	3.58	4.00	0.38	
Q6	2.40	3.17	3.43	3.65	4.00	0.34	
Q7	2.00	3.24	3.50	3.65	4.00	0.37	
Q8	2.00	3.00	3.27	3.50	4.00	0.40	
Q9	2.00	3.25	3.43	3.61	4.00	0.35	
Q10	1.00	3.25	3.50	3.69	4.00	0.39	

教職課程

【 前期 】

- 授業科目の概要 教職課程科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 389
- 回答率 55.8%

【総評】

コメントが記載されている科目が4科目と少なく、おそらく他の科目は回答者数の少なさから調査結果の妥当性に問題があり、コメントの必要性を感じなかった結果かと推察する。

■学部・学科 教職課程
 ■科目名 教職課程全体
 ■担当者名

■受講登録者数 697
 ■回答者数 389
 ■回答率 55.8%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	190 48.8%	186 47.8%	9 2.3%	4 1.0%	3.44
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	77 19.8%	187 48.1%	117 30.1%	8 2.1%	2.86
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	163 41.9%	210 54.0%	12 3.1%	4 1.0%	3.37
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	138 35.5%	186 47.8%	50 12.9%	15 3.9%	3.15
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	121 31.1%	235 60.4%	29 7.5%	4 1.0%	3.22
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につ く。	144 37.0%	225 57.8%	18 4.6%	2 0.5%	3.31
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプ リ・ファイルなど)は適切だ。	133 34.2%	236 60.7%	13 3.3%	7 1.8%	3.27
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたくなる。	96 24.7%	231 59.4%	57 14.7%	5 1.3%	3.07
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	120 30.8%	239 61.4%	28 7.2%	2 0.5%	3.23
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	126 32.4%	238 61.2%	21 5.4%	4 1.0%	3.25

■設問別科目平均の範囲と平均値

平均の範囲(当該学部・学科科目)						全学共通 または 専門科目 の平均値
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差	
3.00	3.25	3.50	3.65	4.00	0.33	
1.50	2.44	2.67	3.00	4.00	0.55	
2.98	3.00	3.25	3.59	4.00	0.36	
1.00	3.00	3.13	3.48	4.00	0.58	
2.88	3.01	3.33	3.50	4.00	0.34	
3.00	3.00	3.33	3.42	4.00	0.34	
2.80	3.00	3.25	3.44	4.00	0.35	
2.25	3.00	3.20	3.41	4.00	0.41	
1.00	3.00	3.14	3.39	4.00	0.54	
2.99	3.00	3.33	3.45	4.00	0.34	

教職課程

【 後期 】

- 授業科目の概要 教職課程科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 83
- 回答率 18.7%

【総評】

コメント記入の科目は前期に比べれば増えたが、それでも9科目であり、そのうち2科目はアンケート回答者数が0であった。

また、教職課程全体の結果を見ると回答率は18.7%であり、受講者の多くは回答していない現状である。調査結果をあえて分析するとすれば、例年と同様の結果が見受けられるということであろう。

■学部・学科 教職課程科目
 ■科目名 教職課程科目全体
 ■担当者名

■受講登録者数 443
 ■回答者数 83
 ■回答率 18.7%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	57 68.7%	25 30.1%	1 1.2%	0 0.0%	3.67
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	14 16.9%	35 42.2%	33 39.8%	1 1.2%	2.75
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	49 59.0%	29 34.9%	5 6.0%	0 0.0%	3.53
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	36 43.4%	32 38.6%	13 15.7%	2 2.4%	3.23
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	48 57.8%	31 37.3%	4 4.8%	0 0.0%	3.53
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につ く。	43 51.8%	39 47.0%	1 1.2%	0 0.0%	3.51
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプ リ・ファイルなど)は適切だ。	51 61.4%	32 38.6%	0 0.0%	0 0.0%	3.61
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたくなる。	42 50.6%	35 42.2%	4 4.8%	2 2.4%	3.41
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	43 51.8%	39 47.0%	1 1.2%	0 0.0%	3.51
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	47 56.6%	34 41.0%	2 2.4%	0 0.0%	3.54

■設問別科目平均の範囲と平均値

平均の範囲(当該学部・学科科目)						全学共通 または 専門科目 の平均値
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差	
3.33	3.47	4.00	4.00	4.00	0.29	
1.80	2.17	2.67	3.10	4.00	0.68	
2.80	3.38	3.67	4.00	4.00	0.40	
2.60	3.18	3.50	4.00	4.00	0.53	
3.00	3.35	3.56	4.00	4.00	0.34	
3.00	3.33	3.50	3.83	4.00	0.32	
3.00	3.42	3.67	3.90	4.00	0.32	
3.00	3.33	3.50	3.90	4.00	0.37	
3.00	3.33	3.50	3.90	4.00	0.33	
3.00	3.37	3.67	3.90	4.00	0.34	